献　　辞

教職員全員の感謝の気持ちとしてこの紀要を前学長田浦武雄先生に捧げたい。

1951年（昭和26年）4月、田浦先生は名古屋大学教育学部助手に就かれ、学者としての道を歩まれることとなる。その後、同大学の教育学部学部長の重責を担われるなど、様々な要職に着かれた後、1986年（昭和61年）3月、名古屋大学を定年退職された。その間35年の長きにわたり、教育哲学の専門家として、『教育哲学原理』、『教育的価値論』など優れた著書を次々と出版され、日本の学会全体に多大な影響を与えてこられた。また、多くの教育者を育てるという、実践者としての一面もお持ちであり、教育者としてすばらしい業績を積んでこられた。1986年（昭和61年）4月から1996年（平成8年）3月まで、愛知学院大学に奉職されるが、1996年（平成8年）4月、本学の学長として就任される。その後、2004年（平成16年）3月までの8年間、学長として、様々な教育改革を行われてきた。

本学は1953年に柳城女子短期大学保育科という単科の大学として認可され、幼稚園教諭2種免許状と保育士資格を取得できる学校として、長らくその教育活動を行ってきた。しかし、田浦先生が学長として就任されて以来、柳城の教育システムを深化するプログラムを次々と実行された。

1997年専攻科保育専攻を立ち上げることで、今まで不可能であった、教育学士の学位及び幼稚園教諭1種免状の取得を可能にする機会を作られた。さらに翌年、専攻科介護福祉専攻を立ち上げることで、保育科を卒業した学生が、1年という単年度で介護福祉士資格を取得できるようにされた。2000年と2001年には、専攻科と保育科の両方で、男女共学制を導入されたことも忘れることができない。こうしたプログラムは、従来の柳城の歴史的流れから考えると、画期的な出来事であった。今、私どもは、田浦先生が道を開いてくださったプログラムに基づいて、日々の教育活動に従事できることを深く感謝している。

田浦先生は現在81歳というご高齢である。しかし、それにも関わらず、先生の文章に触れ、その思考能力と文章表現の深さに感動する。「人格と呼ぶ主体性を持った自我」という考えや「自民族中心主義や集団志向の日本的伝統への単なる回帰ではなく、個の確立と人類的志向の倫理を共に実現し、自己実現と世界の平和の実現のヴィジョンを持たなければならない」という言葉に触れ、私どもはその言葉から、何か予言者的言葉の重さを感じる。

2004年3月に教育現場という一線の場所からは身を引かれたが、現在も、その存在は私ども一人一人に大きな意味を持っている。今後も私どもの活動を見守り、様々な助言を頂ければと願っている。

先生の教育者としての活動は、半世紀にも及び、その影響力は多大なものがある。私ども一同は、先生の今までの活動に対して畏敬の念と伴に、喜びと感謝をもってお礼を述べたい。

名古屋柳城短期大学学長　永見　　勇